

# 國學院大學學術情報リポジトリ

江戸後期・明治初年の地方出版業者：  
文政元年から明治五年まで

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大和, 博幸 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001983">https://doi.org/10.57529/00001983</a>

# 江戸後期・明治初年の地方出版業者

## — 文政元年から明治五年まで —

大和博幸

### 要旨

文政期～慶応期までの間に三都以外の各地方に居住し、当該本の奥付や関連する諸史・資料によって、出版に関わっていたことが年代的に確定ないし推定できる業者の延べ人数は一三〇一人であった。この数値から重複している業者の数を差し引くと、実人数は六八四人（六四箇国、二二七箇所）となった。このうち当該期に二〇人以上の出版業者が存在し営業活動を行っていた国と地域は、名古屋（六八人）、金沢（二九人）、横浜（二四人）、広島（一九人）、仙台（一六人）、和歌山（一四人）、長崎（一三人）、伊勢山田（二二人）、富山（一人）、水戸・佐賀（各一人）の一〇箇国、一一箇所であった。

また同様の視点で明治元～五年をみると、延べ人数は四一五人、実人数は一一四人（四〇箇所、五九箇国）となった。このうち、江戸期に活動を開始し元～五年まで毎年連続して関わりを確認できた業者の数は、名古屋二、静岡・横浜各一の四人に過ぎなかった。

### キーワード

文政～慶応年間、明治元～五年、地方出版業者、同定、識別

### はじめに

江戸時代の文政期から慶応期及び明治元年から五年までを対象として、当該期に刊行された出版物を調査し、奥付や見返しなどに刷り込まれている表示から刊行年代を明確にし得たり、他の関連する諸資・史料によって刊行年代を特定ないし推定し得るものの中から、三都以外の地方に在住し営業していることが確認できる出版業者だけを選び出し、その数値を掌握することが本稿の目的である。奥付などに記載されていない、販売のみに従事している小規模な業者や貸本屋、他業種との兼業者なども数多く存在していた。この方法ではそうした人々を含めた出版業者の全体像をとらえることは難しいといえよう。しかしながら、奥付に表示された出版業者と他の箇所に記された屋号・本姓・堂号・通称などを一致させる作業を確実に行うことが研究の前提となるのは疑いようがない。したがって、刊行物や諸資・史料に記載され

ている書誌事項を丹念に調査し、同定識別のための基礎を積みあげて行くことが、研究を進展させるうえからも大切な要素だと思っている。

### 一、文政期から慶応期の出版業者

対象期間が五〇年と長きにわたるため、該当期間をほぼ五年単位に区切りまとめると、

- ① 文政元～五年（二九箇国、四三箇所、業者数九六）、② 文政六～一〇年（二二箇国、三三箇所、業者数六五）、③ 文政一一～一三年（二二箇国、二六箇所、業者数五八）、④ 天保元～五年（三一箇国、三八箇所、業者数七八）、⑤ 天保六～一〇年（二七箇国、三八箇所、業者数八一）、⑥ 天保一一～一五年（四八箇国、六七箇所、業者数一三三）、⑦ 弘化年間（二九箇国、五七箇所、業者数一〇二）、⑧ 嘉永年間（四八箇国、一〇四箇所、

業者二一六)、⑨安政年間(五三箇国、一〇五箇所、業者数二二六)、⑩万延〜文久年間(三四箇国、四四箇所、業者数一一二)、⑪元治〜慶応年間(四〇箇国、六五箇所、業者数一三四)

となり、延べ人数にして一三〇一人の人たちが何らかの出版物の刊行ないし販売に関与していたことがわかる。

そうした出版業者の実数を把握するために、国別・地域別に整理し年代の古い順に記すと、

山城国 ①伏見・亀(本) 屋前田半兵衛(文政二、天保一四、弘化二・

三、嘉永元・三、安政二・四・五、文久三)、大文字屋新四郎(天保一四)、亀屋伊兵衛(温故堂)(弘化五)、亀屋弥三郎(嘉永元)、小倉屋源三郎(嘉永三)

大和国 ①尾山・梅屋武兵衛(天保四)、②郡山・布屋長八(安政六)、

③月ノ瀬・鍛冶屋窪田兵藏(安政五)、④奈良・絵図(井筒屋筒井庄(莊)八(錦華堂)(文政元・一〇、天保六・一一・一二・一五、嘉永元・五、万延二、文久三、元治元)、新身屋庄兵衛(文政二)、住屋林助(嘉永元)、かせ屋治助(安政七)

和泉国

①堺・住吉屋弥兵衛(文政二・一〇)、本屋徳兵衛(文政八・九、嘉永四)、住吉屋弥三郎(文政九・一四、天保二・四〜八・一〇、嘉永四)、校書堂(天保六)、弘文堂(天保八)、河内屋鈴木久三郎(双鶴堂)(天保一四、嘉永四)、具足屋重兵衛(文岳堂)(天保一四、嘉永三・四・六、安政四・五、元治元)、北村(屋)佐平(兵衛)(赤井堂)(嘉永四・七)、酢屋善次郎(嘉永四)

摂津国

①尼崎・船屋太兵衛(天保一二)、②有馬・御所坊四郎兵衛(天保九)、③須磨浦・産亀堂(嘉永二)、④神戸・備前屋元之助(文政五)、多田屋善九郎(慶応四)、⑤兵庫・中屋中井(居)与兵衛(文政二)、油屋正(庄・莊)五郎(天保二)、瓜屋駒藏(天保一一)、新屋宇兵衛(天保一二)、油屋庄兵衛(天保一四)

伊賀国 ①上野・西沢長兵衛(天保四・一四、弘化元・三・四)

伊勢国

①宇治・佐藤伊織(紙屋茂兵衛)(文政元〜天保一三)、②桑名・糍屋森伝四郎(友松堂)(文政元、嘉永二・四・六、安政四・六)、菱屋弥兵衛(万延元、元治元)、③津・山形屋大森伝右衛門(陽華堂)(文政三・五・六・九・一三、天保二・四・六・七・九・一三、弘化二、嘉永二〜四・六・七、安政四・六、文久元、万延元、元治二)、雲出屋篠田伊十郎(停雲舎)(文政九・一〇・一三、天保六・七・一二〜一五、弘化二・三、嘉永元〜三・六、安政二・三・六、文久二、元治元)、本屋沢田佐兵衛(平)(文錦堂)(文政九、天保一一、弘化二、嘉永二〜四・六・七、安政四・六)、伊勢屋源七(文政一三)、本(山形)屋浅野東助(輔)(天保六)、木村光綱(温史堂)(嘉永五)、伊勢屋水谷治兵衛(文久二)、本屋長兵衛(文久二)、丁子屋服部清七(郎)(文久三、万延元・三、元治元)、④松坂・柏屋山口兵(平)助(輔・介)(文海堂)(文政元・四・五・七・八・一一〜一三、天保二〜四・七・一〇、嘉永六、安政四・五)、松林堂(文政五、嘉永七)、深野屋小泉利助(玄々堂)(文政一三、天保五・六)、本(矢津)屋中西嘉助(介)(嘉永三・六、安政二・五)、晴雪堂(慶応二)、⑤山田・瀬川舍人(文政元〜天保一三、弘化元〜文久二)、村松左京(文政元〜慶応四)、西島左門(文政一一、安政五・六、万延二、文久二〜四、元治二)、江村(天保元)、藤原(屋)甚右衛門(天保三、弘化四、嘉永五)、宮崎左近(天保一三〜慶応四)、富田大式(弘化三)、文台屋庄左衛門(嘉永二・四・六、安政四・六)、藤原屋加藤長兵衛(平)(講古堂)(嘉永五)、藤原(屋)勘右衛門(安政三)、箕曲主水(万延元)、高幽書屋(慶応元) ⑥四日市・松屋善八(松盛堂)(文政二・四、天保九)、永楽屋治右衛門(永楽屋東四郎出店)(弘化三、嘉永四・八)

尾張国

- ①犬山・越後屋市橋平右(左)衛門(嘉永二・四・六、安政四・六)、②内海・酒井大鈞堂(嘉永三)、③大野・文泉堂利助(嘉永二・四・六、安政四・六)、④蟹江・本屋茂八(嘉永二・四・六、安政六)、⑤津島・鈴木治郎左衛門(天保一一)、柴田屋与右衛門(嘉永二・四・六、安政四・六)、⑥名古屋・永楽屋片野東四郎(東壁(壁)堂)(文政元一三、天保元一四、弘化元一五、嘉永元一七、安政元一六、文久元二・四、万延元、元治元二、慶応元一三)、菱(本)屋木村久兵衛(玉山房)(文政元一四一六・八・一〇一三、天保五・一一・一五、弘化二・四、嘉永二、安政四)、松屋善兵衛(昭華堂)(文政元一八・一一一三、天保二一八・一〇一三・一五、弘化四・五、嘉永元一三・五、慶応二)、万屋栗田東(藤)平(兵衛)(慶雲堂)(文政元一四一六一、二、天保元一三・五一〇・一一・一四、嘉永元一三・五・六、弘化元、安政二、万延元、元治元、慶応三)、蒼竜堂(文政二・一二)、長谷川孫助(風月堂)(文政二・三・五・七、天保一四・一五、弘化元二・四・五、嘉永元一三、安政二)、菱(本)屋浜田久八(郎)(万巻堂)(文政二・三・一三、天保四・六一八・一一一五、弘化元二・四、嘉永二一七、安政二一四・六・七、文久二一慶応三)、美濃(本)屋三輪伊六(静観堂)(文政二一八・一一一三、天保四一九・一一一三・一五、弘化二一四、嘉永元一四・六、安政二一四、文久元二、慶応四)、井沢屋和助(湖月堂)(文政三・四・一三)、大野屋江口惣八(胡月堂)(文政三・七、天保二一五、弘化二、嘉永三・四、万延元、慶応三)、竹村勧善堂(文政三)、白木屋平助(文政三)、菱屋金兵衛(文政三・五・六)、美濃(本)屋三輪市兵衛(連華堂)(文政三・五・七・八)、美濃屋三輪清七(文華堂)(文政三一五・七一・一三、天保三・四、嘉永二・四・五、安政元一三、万延元)、金網屋愛敬伴七(文政四、嘉永五一七、安政二・四・五・七、万延二・三、文久二・三)、村松屋善兵衛(文政四)、小木曾勘助(松月舎)(文政五・九、天保八)、鶴泉堂(文政五)、駒屋正次郎(文政五)、寿来堂茂右衛門(文政五)、板木師嘉兵衛(文政五)、板木師俊次(文政五)、板木師新三郎(文政五)、板木師松治(文政五)、藤屋惣助(玉山堂)(文政五、嘉永五・六、安政元)、藤屋弥兵衛(文政五)、美濃屋三輪文次(治二)郎(静観堂)(文政五一〇・一二、弘化四、嘉永元)、玉野屋新右衛門(玉華堂)(文政六一九・一一、天保三一八・一一・一二、弘化二)、味岡屋久次郎(文貫堂)(文政七、天保三・七・八)、中村屋坂次助(玉蟾堂)(文政七・一一、天保六・一二)、扇屋半右衛門(崇高堂)(文政八)、勝村屋東助(玉山堂)(文政八)、菱屋半兵衛(文政八)、中島九兵衛(文政一〇)、菱屋細川小八郎(九星閣)(文政一〇、慶応元)、本屋重兵衛(鳳池堂)(文政一一、嘉永元二)、本屋忠三郎(文政一二、天保三・四)、勧学堂伝左衛門(文政一三、天保七)、龍飛園真多八(文政一三)、菱(本)屋矢田藤兵衛(文海堂)(文政一三、天保九・一三・一五、弘化二・三、嘉永元一六、安政元一七、万延元、文久三、元治元、慶応四)、永楽屋加藤正(庄)兵衛(奎文閣)(天保二・一一・一四、嘉永三・五、文久二、元治元、慶応二・三)、京国屋甚六(七)(大学堂)(天保二・四・六)、大野屋嘉兵衛(天保三・四)、本屋善兵衛(天保三)、藤屋市郎右衛門(成山堂)(天保四・一一)、藤(本)屋鬼頭保(安)兵衛(文教堂)(天保四)、井筒屋佐藤文助(皓月堂)(天保四・六・七・九・一三・一四、嘉永元二・五、安政二一五、文久元、万延元、元治元、慶応二)、美濃屋岩田東八(三友堂)(天保七一〇・一二・一五、嘉永二、慶応元)、中村屋庄助(玉連堂)

(天保一〇、安政四、文久二)、阪野卯(宇)兵衛(晴月堂)(弘化二・三、嘉永二・四・六、安政四・五、万延元、文久二、慶応二)、玉沢屋佐々新七(弘化四)、小田切千歳園(弘化四、嘉永三、安政四)、永楽屋中島太助(海涵堂)(嘉永二)、本屋嘉兵衛(嘉永二)、真崎普房(嘉永二、慶応四)、金網屋愛敬米藏(文集堂)(嘉永四・六・七、安政二)、美濃屋川瀬代(大)助(金華堂)(嘉永四)、秋田屋梶田源助(文光堂)(嘉永六、万延元)、岡本鶯谿舎(嘉永六、安政四)、玉晴堂(嘉永六)、中野屋大助(玉芳堂)(嘉永六、安政二・四・七)、琴風舎豊磨(安政五)、菱(本)屋鬼頭平兵衛(文泉堂)(万延元、慶応三)、山野屋惣兵衛(万延元)、永楽屋片野和助(東園堂)(文久元)、井筒屋正右衛門(慶応二)、豊原堂(慶応二)、⑦村木・米屋岡七(嘉永五・六)、⑧横須賀・両口屋村瀬弥四郎(文政元)

### 三河国

①岡崎・群玉堂(天保七)、山川屋(天保七)、本屋伊藤文吉(環翠堂)(弘化元、嘉永六、安政二・四・六)、栄河堂太郎治(次)(嘉永二・四・六)、②刈谷・東雲堂(天保八・九)、③蒲郡・安藤富助(元治元)、④新堀・深見藤吉(文久二、元治元、慶応二)、⑤知立・サ、ヤ(安政五)、⑥西尾・布袋屋仁(二)左衛門(昌星堂)(天保一、嘉永二・四・六、安政元・二)、大黒屋三十郎(安政四)、⑦吉田・大竹屋寛蔵(文政一、天保四)、江戸屋五平(兵衛)(宋文堂)(弘化四、嘉永二・五・六、安政元・二・四・六)、江戸屋新右衛門(嘉永二・四)

### 遠江国

①白須賀・夏目嘉右衛門(文政三)、②中泉・溜屋惣(左右)助(天保一四、弘化四、嘉永二・五、安政三)、③浜松・伊勢屋太右衛門(積石堂)(天保一四、弘化四、嘉永二・五、安政三)

### 駿河国

①駿府・鉄屋柴崎十兵衛(採撰亭)(文政二・四・七・九・一二)、浪花(本)屋広瀬市(一)蔵(造)(文林堂)(安政四・七、文久

### 甲斐国

三、慶応四)、小松屋徳兵衛(安政六)、②富士川・藤田藤右衛門(天保一五、嘉永五)、③吉原・吉野保五郎(文政一〇) ①畷沢・古久(穀)屋紋右衛門(文政八、天保七)、②甲府・谷村象元堂(天保五・一四、安政六)、藤(富士)屋内藤伝右衛門(温故堂)(天保九、嘉永四、文久三、慶応二・三)、二文字屋藤右衛門(天保一三、弘化四)、村田屋大森孝(幸)太郎(永栄堂・擁万堂)(天保一五、弘化二・五、嘉永元・七、安政四・七、慶応元)、小沢副兵衛(万延元)、清泉堂(万延二、文久三)、井筒屋武井豊兵衛(文久元・三)

### 伊豆国

①熊坂・穂向屋竹村茂雄(天保十二、弘化二)、②修善寺・伊勢屋藤兵衛(天保五) ③三島・河合竜節(安政三)

### 相模国

①浦賀・和泉屋善次郎(安政四・七)、②箱根・福住九蔵(嘉永二)、蔦屋平左衛門(嘉永七)、奈良屋兵次(安政四)、宮川屋与吉(元治二)、③鎌倉・常陸屋伊三郎(嘉永三)

### 武蔵国

①神奈川・石崎(屋)源六(安政五、万延元、文久元)、②熊谷・文昇堂(嘉永四)、③鴻巣・長(永)島(屋)為一郎(盛化堂)(慶応二)、④玉川・万林堂(嘉永四)、⑤八王子・日光屋文治郎(嘉永二)、学半堂(安政五)、⑥保土ヶ谷・天野谷幸太郎(慶応三)、⑦本庄・須(酢)屋武正安兵衛(平)(安政三)、⑧横浜・東屋新吉(新栄堂)(安政六、万延元、文久元・三、慶応四)、鯛屋市左衛門(安政六)、広屋栄助(安政六)、郡内屋喜右衛門(安政六)、佐藤屋才兵衛(安政六)、相模屋善四郎(安政六)、佐野屋尾崎富五郎(錦誠堂)(安政六、万延元、文久三、元治元、慶応元)、高木屋五郎兵衛(安政六)、中居屋重兵衛(安政六)、林屋市右衛門(安政六)、明林堂権右衛門(安政六)、山城屋安兵衛(安政六)、伊勢屋しゅん(万延元)、岩亀楼(さい)(万延元)、北国屋又兵衛(万延元)、津久井屋専左衛門(文久元)、

杵屋米八(文久二)、師岡屋吉川伊兵衛(錦港堂)(文久二・三元治元、慶応二・四)、伊勢屋幸吉(元治元)、伊勢屋勝郎(慶応三・四)、太田屋茂兵衛(慶応三・四)、ハルトリー商会(慶応三)、蒸気船待合所(慶応四)、ユーブ(慶応四)、⑨藤・藤屋善七(文政六)

安房国 ①磯村・真浦屋忠吉(嘉永二) ②横峰・花屋武助(万延元)  
上総国 ①東金・多田(々)屋能勢嘉左(右)衛門(盛松館)(嘉永七、安政六)

下総国

①古河・菊池屋長谷川儀助(嘉永二)、②境町・小橋屋安右衛門(嘉永三)、③佐倉・鈴木源太(安政四)、④佐原・釜屋朝野利兵衛(平)(正文堂)(天保一三・一四、弘化三・五、嘉永二・三・五・七、安政四・五・七、慶応元・三)、⑤関宿・木村清兵衛(嘉永三)、⑥銚子・飯田屋利兵衛(天保一四、弘化四、嘉永二・五、慶応二)、⑦万歳村・高橋治右衛門(文政三)

常陸国

①潮来・宮本尚一郎(三香社)(文政一二、万延元)、②太田・会津屋沼尻茂兵衛(平)(正栄堂)(文久元)、③菅谷村・茗荷屋松兵衛(文政四)、④土浦・大国(黒)屋伊沼弥助(雲章堂)(天保一四、弘化四、嘉永七、慶応元)、寺田(屋)新助(時習堂)(嘉永七)、寺田清兵衛(栄光堂)(嘉永七)、⑤府中・福島屋太兵衛(嘉永七)、⑥古渡村・青柳角左衛門(安政三)、⑦水戸・須原屋北沢安次(治・二)郎(東壁楼)(文政元・二・一、天保四・六・一・一四、弘化四、嘉永二・三・五・七、安政三・五、万延元、文久三、慶応元・三)、須原屋安五郎(文政六、天保一三・一四)、舛(升)屋治三郎(文政八、天保一〇、弘化三、安政五)、文昌堂(文政九、嘉永三)、伊勢屋岩田藤右衛門(咸草堂)(天保一四、安政四・五・七、慶応三)、蟻屈舎(弘化元、嘉永四・五、万延元)、豊田亮(嘉永元・四・五、安政五、

文久三)、蠟燭屋六兵衛(嘉永五、安政五)、岡本伝二郎(安政三)、河崎屋由兵衛(安政四・七)、⑧龍ヶ崎・筆屋新助(嘉永七)

近江国

①大津・本屋沢宗(惣)次(治・二)郎(五車堂)(文久二)、②阪本・松嶋昌寿堂(天保四)、③高宮・近江(本)屋北川太兵衛(平)(錦雲堂)(慶応二)、④彦根・吉阪(坂)屋太兵衛(天保一四、嘉永三・六、安政五)、中村屋猪平(安政二・五)、⑤日野・板木屋太兵衛(平)(天保五)、⑥八日市・本屋小杉文右衛門(文政一〇、弘化四)

美濃国

①今尾・池田屋平兵衛(嘉永二・四・六、安政四・六)、②大垣・茶屋上田源藏(遊文舎)(文政元、天保二、嘉永二・四・六)、本屋与惣次(治)(嘉永三・六)、本屋平野利(理)兵衛(平流軒)(安政四)、③加納・三星堂(慶応二)、④岐阜・藤屋又兵衛(文政五)、藤屋久兵衛(文政五、天保二・一五、弘化三)、松坂屋福田半九郎(文淵堂)(嘉永二・四・六、安政四・六)、⑤関・紅屋伊兵衛(文政五)、一文字屋浅井藤兵衛(千金堂)(嘉永六、安政四・六)、⑥高須・山本屋吉右衛門(天保一)

信濃国

①伊豆木・打越堂(文政元・三)、②伊奈・丸中重治兵衛(嘉永五)、③稲荷山・和泉屋庄吉(月都書房)(文政四・一〇)、岡村橘葉堂(文政七、天保八)、④上田・油屋金五郎(文政三、嘉永五、安政四・六・七)、上野屋斎藤三郎助(酣古堂)(文政八、弘化四、嘉永六・七、安政六)、柏屋惣(宗)兵衛(柏昌堂)(安政七、慶応三)、⑤白田・富田屋依田儀三郎(誠信堂)(安政四)、⑥追分・丸屋与六(弘化四)、⑦岡田村・西沢三郎右衛門(文政一〇)、⑧小諸・葛屋彦次郎(文政三)、小山石藏(天保五、嘉永三、安政六、慶応三)、⑨佐久郡・必興堂(嘉永三)、不易堂(嘉永三)、⑩須坂・佐渡屋兵右衛門(嘉永二)、⑪諏訪・大

坂屋忠四郎(文政六)、⑫善光寺・小榊(升・舛)屋西沢喜太(多)郎(松葉軒)(文政二・九、弘化三〜七、嘉永二・五〜七、安政元・二・四〜六、元治元、慶応三)、蔦屋岩下伴五郎(向栄堂)(文政二一、天保三、弘化三〜五、嘉永元〜三・五〜七、安政二・四・五〜七、万延元、慶応三)、石川藤八(天保六)、駿河屋松本国平(安政六)、⑬高遠・吉田広道(文政一三)、吉田屋勝藏(嘉永六・七)、⑭松代・如蘭社(天保五)、美濃屋与左衛門(天保一一)、⑮松本・岩本平藏(文政元・四・五、天保七)、高美屋高見甚左(右)衛門(慶林堂)(文政三、天保六〜八・一四、弘化四・五、嘉永二〜七、安政元・四〜七、文久三、慶応三)、藤松屋竹(武)内禎十郎(青雲堂)(天保一四、弘化四、嘉永三・五・七)

#### 上野国

①赤羽根・木屋仙吉(安政二)、②安中・千巻屋真下喜平次(治)(古香軒)(元治元・二)、③桐生・森口文右衛門(天保五)、足穎舎(天保九)、④高崎・菊屋源兵衛(文政二二、安政二・四・七、慶応三)、沢本屋要藏(造)(天保一四・一五、弘化二〜五、嘉永二・三・五・七、安政四〜七、慶応二・三)、藤木与惣次(天保一四、弘化四)、⑤藤岡・大塚平左衛門(文政八)

#### 下野国

①足利・山木屋新井金太郎(安政六)、山木屋政助(安政六)、②宇都宮・沢屋新八(天保二)、荒物屋篠崎伊右衛門(嘉永二、安政三〜七、万延元、文久元、元治元、慶応三)、③佐野・堀越常三郎(弘化四、嘉永二・五、安政四・五・七・八、文久二)、柳圃堂(慶応元)、④栃木・釜屋立川喜兵衛(平)(弘化四、嘉永二・五、文久二)、升(枅)屋浅吉(嘉永三・五、安政三〜五・七、万延元、慶応三)、万屋吉兵衛(文久元)、稲葉重左衛門(文久二)、宮川栄助(文久二)、⑤日光・遠藤喜六(文弘堂)(文政五・六)、大島久兵衛(天保一一・一三、安政三)、⑥真岡・鈴

#### 磐城国

木屋久四郎(嘉永三)、堺屋平兵衛(嘉永七)、⑦安沢・万屋利平(兵衛)(弘化四、嘉永二・五、文久元) ①角田・赤松定興(天保一〇)、②白河・坂木屋平兵衛(安政四)、前川伝吉(安政四)、松詠堂(文久元)、醉経堂(文久元)、近江屋茂兵衛(慶応三)、③白石・石津屋菊地重郎左衛門(静清堂)(安政四)、④平・静幽堂(文政一一、天保一一)、清水屋甚右衛門(安政五)、⑤棚倉・奈須屋角兵衛(嘉永七)

#### 岩代国

①大谷村・五十嵐富安(嘉永四、元治元)、②桑折・藤方彦一郎(嘉永六)、③福島・近江屋三十郎(弘化四、慶応元・二)、臥龍堂文助(嘉永五)、西屋小兵衛(安政四〜七、慶応三)、④若松・菊地庄左衛門(文政四〜七・一〇・一一、天保元〜四・七・九・一〇・一二・一三、弘化四、嘉永元・四、安政三、万延元、慶応元〜三)、堺屋作左(右)衛門(天保四、嘉永五、安政三〜五・七)、山形屋三右衛門(天保一四、弘化五、嘉永四〜七、安政四・七)、斎藤(屋)八四郎(天保一四、弘化四、嘉永二・五・七、安政二〜七、慶応三)、光忠堂(嘉永二)、齐藤屋房吉(嘉永三、安政三)、篠崎太兵衛(安政三)、堺屋作兵衛(安政六)

#### 陸前国

①石巻・三春屋平吉(嘉永六)、②塩釜・前田(屋)茂兵衛(文政二)、③仙台・池田屋源藏(芳潤館)(文政元・二・四・六、天保三、文久二・四)、伊勢屋白木半右衛門(豪華房)(文政元〜一〇・一二・一三、天保二〜一〇・一四、弘化元・二・四・五、嘉永元〜五・七、安政元〜七、万延元・一、文久元〜四、元治元・二、慶応元〜四)、加志和屋正六(文政元・三・五)、川村屋源吉(文政二)、本屋西村治右衛門(流輝軒)(文政四・六・八〜一〇・一二・一三、天保二〜四・八・一〇、弘化元、嘉永五、安政六・七)、菅原(屋)安兵衛(養軒堂)(文政五、天保八・

一四、嘉永二・五・六、安政三・五・七、文久元、高橋屋忠吉(敬業堂)(文政七・八・一三、天保四・五)、伊勢屋安右衛門(静雲堂)(文政九、安政七、万延元、文久二)、板木屋彦右衛門(文政九)、相沢屋甚二(次)郎(葎堂)(文政一一・一三)、柳川屋庄兵衛(金華房)(文政一二、天保一〇)、田口屋(天保六)、山田屋正(庄)兵衛(白居堂(弘化三)、松浦屋權之助(安政三)、拾翠堂(文久二)、文寿堂栄助(慶応元)、④若柳・鈴木屋善藏(文久元)

陸中国

①岩谷堂・渋谷伊惣治(天保六)、渡辺喜三太(天保六)、②一関・松田屋庄助(文政一二)、千葉(屋)新助(济文堂)(文政一三、天保五、安政三)、③盛岡・木津屋池野藤兵衛(天保三)、舞田(屋)理(里)作(嘉永四)、舞田屋喜作(嘉永八)、十一屋伊兵衛(安政四)

陸奥国

羽前国

①弘前・竹屋慶輔(文政四)  
①大泉・宜得堂(文政一〇、天保二、安政二)、②高湯・若松屋長右衛門(天保一五)、③鶴岡・丁子屋門吉(鶏舌堂)(天保二、安政三)、人形屋治助(嘉永二、慶応三)、豊島屋喜八(元治元)、武蔵屋半七(元治元)、④天童・石沢屋権兵衛(弘化元)、⑤二井宿・島津六兵衛(弘化三)、⑥山形・黒木屋太右衛門(玄樹堂)(文政五・一一・一二)、北条忠兵衛(崑崙堂)(文政六・一二・一三、天保一三、弘化元・五・六、嘉永元・三・六・七、安政二・三・五・六、文久三)、大和屋惣左衛門(天保一四)、高田(屋)為次(治・二)郎(弘化元、安政五)、市村屋五郎兵衛(安政三)、山口屋甚兵衛(安政三)、高田金兵衛(安政五)、佐々木屋理作(慶応三)、⑦米沢・舟山善四郎(文政三・五)、素月晨平(素月堂)(安政四)、辰巳屋長左衛門(安政四・五・七)、丁子屋吉藏(安政四・五・七)、渡辺喜助(安政四)

羽後国

①雲然村・東栄堂(阿部三泉)(万延二)、②久保田・広島(屋)孫右衛門(良栄堂)(文政二・一三)、桑月庵(文政四)、飯塚初三郎(文政五)、板屋久治(嘉永六)、③酒田・巴屋(文政一〇)、玉明堂(天保元)、五十嵐仁左衛門(安政三)、石渡文九郎(安政三)、④横手・越後屋渡辺八右衛門(嘉永六)、渡辺屋権太郎(安政三)、柿崎屋四郎兵衛(文久四、慶応三)

若狭国

越前国

①小浜・松本(屋)利兵衛(文明堂)(天保一四)  
①鯖江・油屋嘉兵衛(天保一四)、油屋嘉右衛門(嘉永三・六、文久元)、②府中・河内屋常七(天保一五)、油屋仁兵衛(嘉永六)、③福井・帯屋喜兵衛(天保一四)、帯屋喜八郎(嘉永二・三)、鷹屋与兵衛(嘉永三・六・八、安政二・六)、帯屋相平喜平治(次)(慶応二)

加賀国

①金沢・津幡屋(文政元、慶応二)、宮田屋(文政元、慶応四)、塩屋与三兵衛(文政二、天保七)、八尾(百)屋喜兵衛(文政二・六・一三・一四、天保二・一五、弘化二・四、嘉永二・五、安政四・六、万延元)、旭松堂(文政六)、八百屋利(理)右衛門(文政六)、松浦善助(宝賢堂)(文政一〇、天保九・一二、嘉永二、安政六、文久三、慶応元)、石立屋文二(集雅堂)(天保二、弘化三、嘉永二・三・五、安政四・六、文久二、元治元)、杉浦八兵衛(川後房)(天保二・九・一一、嘉永二)、松浦八平(兵衛)(天保七・九・一一、嘉永二・五、安政七)、瀬波屋犀輔(天保一一)、増山屋平右衛門(天保一三)、近岡屋太兵衛(平)(天保一四、嘉永七、安政三・四・六、万延元、文久三、元治二)、小川水月堂(弘化五)、甘泉堂(嘉永八)、広岡屋与作(近広堂)(安政二、元治元、慶応三)、近(岡屋)八郎右衛門(翰玉房)(安政三・四、文久元)、大久保孫右衛門(安政四・七)、柚木(屋)甚兵衛(安政四・五・七)、池善平(兵衛)(観文堂)(安政六、

文久元)、石田太左衛門(安政六、慶応元)、天章閣(安政六)、老鳩堂(安政六)、池屋善兵衛(文久元)、好文堂(文久元)、成屋太兵衛(文久三)、有文堂(文久三)、野村九八郎(慶応元)、集文堂文左衛門(慶応三)

### 越中国

①富山・荻田一蓬(文政二)、紅屋伝兵衛(宣明堂)(文政九、一〇、嘉永元・四、安政四・六)、邑本兵五郎(右書堂)(嘉永元・四、安政四)、上市屋卯(宇)助(介)(嘉永七、安政四・六)、狐塚屋伝三郎(安政二)、御福屋文治(次)郎(安政二・四・五)、荻田熊次良(安政三)、荻田藤兵衛(安政三・六)、八百屋松之助(万延二、元治二)、栗山屋高見清兵衛(元治二)、松屋真田善次(二)郎(鶴棲堂)(元治二、慶応二)

### 越後国

①今町・新井田貞治(安政三)、②小千谷・能登屋政八(嘉永七)、③笠楨・優学館(天保八)、④柏崎・(和)泉屋七兵衛(文政一、天保八)、高桑(屋)小兵衛(平)(嘉永七)、⑤龜田・五十嵐六三郎(安政三・五・七)、⑥三條・小間物屋(安政元)、石雲堂(弘化二)、扇屋七右衛門(天保一四、弘化四・五、嘉永二・三・五・七、安政四・五・七、元治元)、樋口屋小左衛門(擁天堂)(慶応四)、⑦地藏堂・伊丹屋江口藤吉(安政二)、⑧新発田・新津屋太次(治)兵衛(天保一四、弘化二・四、安政三)、浜崎屋(喜助)(弘化二、安政三)、⑨白根・青山堂周助(文政六)、井筒屋徳右衛門(弘化二)、⑩水原・小田島(屋)儀兵衛(天保一三・一四、弘化三・四、嘉永二・三・五・六、安政元・三・六、万延元、元治元、慶応二)、紅屋齋藤忠太郎(潤身堂)(弘化二)、渡辺兵吉(安政四・五・七、慶応三)、島屋西村六平(万松堂)(慶応二)、⑪高田・海老屋庄(正)吉(嘉永七)、笹屋忠三郎(安政二)、杉田屋和一郎(安政三)、⑫燕・本屋(安政元)、⑬長岡・中村屋作平(兵衛)(天保九、弘化二、元治元)、太田

源八(安政元)、ヒラタ屋(安政七)、鳥屋目黒十郎(巢枝堂)(慶応四)、⑭中条・小西屋友助(安政三、慶応二)、小西屋慶助(慶応二)、⑮新潟・三条屋忠藏(宝金堂)(弘化四)、紫錦堂(嘉永二)、常善堂(嘉永六)、三条屋忠助(安政三)、秋田屋静六(安政三)、吉井久助(安政五・六)、平野屋八十兵衛(安政三)、

### 丹後国

①田辺・本屋庄右衛門(慶応二)、②舞鶴・鳥屋吉左衛門(慶応二)、③峰山・姫路屋政次郎(椽月堂)(安政四・六)、姫路屋伊兵衛(安政六)、④宮津・万屋治兵衛(文政一三)

### 但馬国

①豊岡・大磯屋与七右衛門(嘉永二)

### 因幡国

①鳥取・油屋仲藏(安政三)、平野屋新兵衛(安政六)

### 伯耆国

①米子・佐々木屋平八(天保八・九)

### 出雲国

①杵築・和泉屋助右衛門(天保九・一三、嘉永四・六・七、安政四)、②大東町・佐渡屋平六(文政七、嘉永四)、③松江・森脇屋正助(天保二)、岡田屋重藏(天保四)、小笹屋良兵衛(天保四)、尼(ヶ)崎屋喜三(惣)右衛門(文会堂)(天保九・一三・一四、弘化三、嘉永四・六・七、安政六、慶応元)、辰巳屋忠左衛門(慶応三)

### 石見国

①浜田・出雲屋安達幾太郎(安政二)

### 播磨国

①赤穂・江戸屋伊兵衛(天保一三)、赤松屋室井清平(兵衛)(安政六)、②姫路・灰屋本莊(庄)輔(助)治(二・次)(樊圃堂)(文政二・一三、天保五・七・一〇・一五、弘化二・三、嘉永三・四・六・七、安政三・六、万延元、文久三)、隅屋喜(紀・記)右衛門(天保五・一三、嘉永三)、隅屋次良(郎)平(天保一三、嘉永三・六)、灰屋山野長兵衛(平)(五車堂)(嘉永四・六・七、安政二・五・六、文久三、慶応二)、灰屋松原庄八(文久二・三、慶応元)

美作国 ①津山・鋼屋善助(文政三)、風雲堂(安政三)

備前国 ①岡山・中島屋世良田益太郎(義延堂)(文政元)、片上屋孫兵衛(玉泉堂)(文政一三、天保二二、一四、弘化三、嘉永三、七、安政三)、中島屋益吉(義延堂)(天保五・七・九・一三、弘化二、嘉永三、五、安政四、万延元)、松島屋(文久三)

備中国 ①井原・胡屋竹治(弘化三)、②笠岡・伏見屋仙右衛門(弘化三)、③川辺・和泉屋利平(弘化三)、④倉敷・大田屋西沢六藏(造)(天保五・一三・一五、弘化三・四、嘉永三・四・六・七、安政四・六、万延元)、小野治右衛門(天保八)、大坂(阪)屋源介(助)(万延元、元治二)、⑤惣社・鍋屋直治(弘化三)、⑥玉島・中屋与吉(天保一三)、⑦松山・昏屋清右衛門(弘化三)、⑧矢掛・阪本屋茂兵衛(弘化三)

備後国 ①尾道・鳥屋善八(天保一三)、②神辺・本庄屋為右衛門(弘化三)、③福山・博多(田)屋忠兵衛(天保一三、弘化三、嘉永三・六)、森立之(嘉永七)、笹屋藤村喜兵衛(平)(安政六)、④府中・中田屋万兵衛(弘化三)

安芸国 ①広島・和泉屋新藏(文政二)、島屋彦兵衛(文政二)、隅田屋平藏(文政二・三)、世並屋伊兵衛(文政二、四・六・一一、天保二・一四・一五、嘉永元・三、七、安政六)、松村清兵衛(文政三・五)、坂田保兵衛(文政九、一四、天保元、安政三)、米屋兵助(文政一一、一三、天保三、五・一一、一五、嘉永四)、升田文藏(文錦堂)(天保二)、坂田忠五郎(天保三)、樽屋惣左衛門(天保三・一三)、柏原屋平七(檜藻堂)(天保八・一三)、宮崎小十郎(天保一三)、井筒屋末田忠八(郎)(天保一四、弘化二、嘉永元・二・四・六・七、文久元・二)、世並屋治助(嘉永元)、井筒屋忠太郎(嘉永四)、井筒屋末田勝治(次・二)郎(安政二・三・五、文久二)、井筒屋麗藏(安政四・五、万延元)、

富田屋幸兵衛(文久二)、山口宗五郎(文久二)、②宮島・船津屋源吉(文政三・一〇)、高砂屋平治郎(文政六)、葛屋佐七郎(文政一〇)、小方屋治兵衛(嘉永六)、船津屋岩吉(万延二)、③吉田・橘故堂道雄(安政八、一〇)

周防国 ①徳山・淺(朝)田屋孫兵衛(天保一三、嘉永四)、②宮市・藤屋文左衛門(嘉永四)、鶴屋栄三郎(安政三)

長門国 ①下関・野上屋権左衛門(安政六) ②萩・熊城七郎(良)左衛門(天保一三、嘉永四)、山城定七(天保一三)、山城屋孫十郎(嘉永元・二、四・六)、熊代屋文藏(嘉永四)、山城屋官部彦八(嘉永四・六、安政二、六、万延元)、山城屋孫四郎(嘉永四)

紀伊国 ①高野山・山本平六(永寧坊)(弘化二、嘉永元・三、五)、帶屋保兵衛(花月堂)(安政四)、②粉川・大坂屋青木長三郎(青樹堂)(文政一〇・一二)、田辺屋新四郎(玉樹堂)(文政一二)、今出屋清八(妹背堂)(安政五)、③田中莊・西畑松右衛門(安政五)、④田辺・富屋和平(文政八)、⑤和歌山・優雅堂(文政元)、帶屋高市伊兵衛(青霞堂)(文政二、四・六・八・九・一二・一三、天保二・四、一、一三、弘化二、四、嘉永元、七、安政四、六、慶応元・三)、總(加勢)田屋田中平右衛門(青黎堂)(文政二、六・九、一三、天保二、一四、弘化二、四、嘉永元、七、安政三、六)、坂(阪)本屋野田喜(紀・記)一(市)(郎)(世寿堂)(文政二・八・九・一一、一三、天保二・四、一五、弘化二、五、嘉永元、七、安政二、六、万延元、文久元・二、慶応二)、坂(阪)本屋野田大二(治・次)郎(眉寿堂)(文政二、天保四、一、一三・一四、弘化二、嘉永元、七、安政二、六、万延元、文久二)、本(帶)屋平井文助(祐)(五稼堂)(文政二)、總(加勢)田屋嘉兵衛(平)(文政三、天保四・六、弘化三、嘉

139 國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要 第2号 (平成22 (2010) 年3月)

永六・七)、岩橋屋与市(天保二)、錢屋喜十郎(文弘堂)(天保五・七・八・一〇・一二・一四)、坂(阪)本屋津田源兵衛(万寿堂)(天保六・七、嘉永六・七、安政三・六、万延元、文久二)、笹屋小松文五郎(聚星堂)(天保六・一一・一三・一五、弘化二・四、嘉永二・五・七、安政四・五)、崖屋次右衛門(天保八)、三秀堂(嘉永四)、天香堂(文久三)

#### 淡路国

①須本・桑(久和) 島屋福浦文藏(造)(藻文堂)(天保三・四・八・一三、元治元)、鍋屋伊三郎(天保一三)、鍋屋伊兵衛(天保一四)

#### 阿波国

①徳島・天満屋住友武兵衛(平)(尚古堂)(文政六・一三、天保四・六・九・一一・一四、弘化四、嘉永元・七、安政二・五・六、元治元)、一乘屋勘右衛門(天保五)、紀伊国屋黒崎三右衛門(天保一三)、小西吉兵衛(文久元)、宮沢(島)屋伊左衛門(文久元)

#### 讃岐国

①金毘羅・柏屋沼田仲助(弘化四、嘉永四)、②高松・本屋岩佐茂兵衛(天保四・一三、嘉永三・六・七、元治元)、青梅屋市二郎(天保一三)、木屋治助(天保一三)、筑前屋与兵衛(嘉永七)、③丸亀・横関平八郎(文政二)、小川屋万五郎(天保一四)

#### 伊予国

①今治・戎屋庄右衛門(天保一三)、②松山・袴屋金七(天保一三、嘉永三・六・八、安政二)、文泉堂(安政三)、誠格堂(慶応三)

#### 土佐国

①高知・糸屋儀三郎(天保四)、瀬戸(屋)才助(天保五・一〇・一三・一四、嘉永三)、田村屋源(常)右衛門(嘉永三・四)、吉田屋亀助(嘉永三・六)

#### 筑前国

①芦屋・紀伊国屋喜右衛門(慶応三)、万屋利助(慶応三)、②大宰府・笹屋武右衛門(文政二)、③博多・多飛屋次(治)助(万

玉堂)(天保三・五・九・一〇・一二・一四、嘉永二・四、安政四、万延元)、(印)判屋藤吉右衛門(嘉永六、元治元、慶応三)、万屋伊兵衛(安政七)、深屋船(舟)木弥助(元治元)、(印)判屋善兵衛(慶応三)、(印)判屋源右衛門(慶応三)、越後屋藤次郎(慶応三)、④福岡浦・甘木屋太四郎(泰成堂)(安政四、慶応三)

#### 筑後国

①久留米(印)判屋八平(文政一三)、中沢嘉右衛門(天保一三、嘉永二・五)、松屋茂兵衛(安政六)

#### 豊前国

①小倉・藤可堂(文政八)、越後屋清助(天保一二)、中津屋中島卯助(嘉永三・五・六、安政六)、丹波屋藤七(慶応三)、村田屋政之助(慶応三)、②中津・加徳屋庄平(文久元)、中島屋久右衛門(文久元)

#### 豊後国

①杵築・肥後屋半兵衛(安政四・五、万延元)、②高田・亀屋四郎兵衛(元治元)、③別府・米屋礼藏(天保一三)

#### 肥前国

①佐賀・高取武兵衛(大吉)(観古堂)(弘化二)、原口丈右衛門(嘉永三・六)、紙屋高取惣(宗)右衛門(嘉永六・七、安政五・六、文久三)、野中源兵衛(安政六)、原口吉二(安政六、元治二)、大坂屋恵七(慶応三)、京屋徳平(慶応三)、米屋卯太(慶応三)、彫刻師忠兵衛(慶応三)、彫師清藏(慶応三)、②長崎・豊(富)島屋大島文治右衛門(文錦堂)(文政四)、辰巳(立身)屋万兵衛(天保六・八・一二・一四、嘉永四・六)、牛深屋(弘化三)、大和屋由平(文彩堂)(弘化四、嘉永元・六)、山形屋清兵衛(嘉永元)、小野(桢)左右(惣・宗)助(輔)(清華堂)(嘉永二・六、安政三)、本屋啓太郎(嘉永三・六)、原田惣兵衛(嘉永七)、松田雄助(嘉永七)、塩田幸八(安政六)、増永文治(万延元)、鱗華堂(慶応二)、ケイス(慶応四)

#### 肥後国

①熊本・橘屋野田清藏(天保一〇)、野田定治郎(天保一〇)、

橋屋儀助(輔)(天保一二・一三、嘉永三・四・六・七)、吉文  
字屋勘右衛門(天保一三)、珠数屋中山伝兵衛(嘉永元・二・六)、  
豊前屋太右衛門(嘉永元・二・六、安政三・五、万延元)、会  
津屋(嘉永三)、小島屋永(長) 田儀八(郎)(安政六)

日向国 ①延岡・伊賀屋四郎右衛門(天保一三)

薩摩国 ①鹿兒島・桑原文二郎(天保一三)、山崎屋助二郎(天保一三、  
嘉永六)、青木静左衛門(安政二・四、万延元)、吉田源(三)  
左(右) 衛門(慶応三)

対馬国 ①厳原・村倉次郎(嘉永七)

蝦夷地 ①函館・林屋林蔵(安政三)、近江屋又治郎(安政五)、宮川屋  
与吉(元治二)、デユース(慶応四)

のようになる。

上記の結果を分かりやすくするために再整理し、出版に関わった人の多  
かった国・所在地から順に記してみると、

七六人 ①尾張国(名古屋六八、津島二、犬山・内海・大野・蟹江・村  
木・横須賀各一)

三七人 ①越後国(新潟七、三条・水原・長岡各四、高田三、柏崎・新  
発田・白根・中条各二、今町・小千谷・笠楨・亀田・地藏堂・  
燕・新津各一)

三三人 ①武蔵国(横浜二四、八王子二、神奈川・熊谷・鴻巣・玉川・  
保土ヶ谷・本庄・蕨各一)

三一人 ①伊勢国(山田一二、津九、松坂五、桑名・四日市各二、宇治  
一)

二九人 ①加賀国(金沢二九)  
二七人 ①信濃国(善光寺四、上田・松本各三、稲荷山・小諸・佐久郡・  
高遠・松代各二、伊豆木・伊奈・白田・追分・岡田村・須坂・  
諏訪各一)

二五人 ①安芸国(広島一九、宮島五、吉田一)

二三人 ①肥前国(長崎一三、佐賀一〇)

二一人 ①紀伊国(和歌山一四、粉川三、高野山二、田中荘・田辺各一)、  
②羽前国(山形八、米沢五、鶴岡四、大泉・高湯・天童・二井  
宿各一)

一九人 ①常陸国(水戸一〇、土浦三、潮来・太田・菅谷村・府中・古  
渡村・龍ヶ崎各一)、②陸前国(仙台一六、石巻・塩釜・若柳  
各一)、

一六人 ①下野国(栃木五、足利・宇都宮・佐野・日光・真岡各二、安  
沢一)

一三人 ①三河国(岡崎四、吉田三、西尾二、蒲郡・刈谷・新堀・知立  
各一)、②岩代国(若松八、福島三、大谷村・桑折各一)

一二人 ①羽後国(久保田・酒田各四、横手三、雲然村一)

一一人 ①美濃国(大垣・岐阜各三、関二、今尾・加納・高須各一)、  
②越中国(富山一一)、③筑前国(博多七、苜屋二、大宰府・  
福岡浦各一)

一〇人 ①摂津国(兵庫五、神戸二、尼崎・有馬・須磨浦各一)、②備  
中国(倉敷三、井原・笠岡・川辺・総社・玉島・松山・矢掛各  
一)、③磐城国(白河五、平二、角田・白石・棚倉各一)

九人 ①和泉国(堺九)

八人 ①甲斐国(甲府七、鰍沢一)、②上野国(高崎三、桐生二、赤  
羽根・安中・藤岡各一)、③陸中国(盛岡四、一関・岩谷堂各二)、  
④越前国(福井四、鯖江・府中各二)、⑤肥後国(熊本八)

七人 ①大和国(奈良四、尾山・郡山・月ノ瀬各一)、②下総国(古河・  
境町・佐倉・佐原・関宿・銚子・万歳村各一)、③近江国(彦  
根二、大津・阪本・高宮・日野・八日市各一)、④播磨国(姫  
路五、赤穂二)、⑤長門国(萩六、下関一)、⑥讃岐国(高松四、

丸亀二、金毘羅一)、⑦豊前国(小倉五、中津二)

六人 ①相模国(箱根四、浦賀・鎌倉各一)、②備後国(福山三、尾道・神辺・府中各一)

五人 ①山城国(伏見五)、②駿河国(駿府三、富士川・吉原各一)、③丹後国(峯山二、田辺・舞鶴・宮津各一)、④出雲国(松江三、杵築・大東町各一)、⑤阿波国(徳島五)

四人 ①備前国(岡山四)、②伊予国(松山三、今治二)、③土佐国(高知四)、④薩摩国(鹿児島四)、⑤蝦夷地(函館四)

三人 ①遠江国(白須賀・中泉・浜松各一)、②伊豆国(熊坂・修善寺・三島各一)、③周防国(宮市二、徳山一)、④淡路国(須本三)、⑤筑後国(久留米三)、⑥豊後国(杵築・高田・別府各一)

二人 ①安房国(磯村・横峯各一)、②因幡国(鳥取二)、③美作国(津山二)

一人 ①伊賀国(上野二)、②上総国(東金二)、③陸奥国(弘前一)、④若狭国(小浜一)、⑤但馬国(豊岡一)、⑥伯耆国(米子一)、⑦石見国(浜田一)、⑧日向国(延岡一)、⑨対馬国(厳原一)

となり、文政期から慶応期にかけて刊行ないし販売に関係していたことが、本や関連諸資・史料から確認することのできる業者の実数は六八四人であった。そして、一〇人以上の出版業者が営業し活動していた国・場所及び人数は、尾張国名古屋六八人、加賀国金沢二九人、武蔵国横浜二四人、安芸国広島一九人、陸前国仙台一六人、紀伊国和歌山一四人、肥前国長崎一三人、伊勢国山田一二人、越中国富山一一人、常陸国水戸・肥前国佐賀各一〇人の一〇箇国一一箇所であったことがわかる。ちなみに、出版に係る業者を一人も確認できなかったのは、河内、志摩、佐渡、丹波、大隅、沓岐の六箇国であった。

## 二、明治元年から五年の出版業者

明治元年から五年までを一年ごとに区切り、地方在住の出版業者のみを抽出しまとめてみると、

①元年(一一箇所、一二箇所、業者数一八)、②二年(一一箇所、二七箇所、業者数四一)、③三年(二二箇所、三七箇所、業者数六七)、④四年(一四箇所、二〇箇所、業者数六二)、⑤五年(四九箇所、一一四箇所、業者数二二七)

となり、延べ人数にして四一五人の人たちが何らかの出版物の刊行ないし販売に関わっていたことが知れる。

次に、実数を知るために江戸期と同様に国別・地域別に整理し記してみる

大和国 ①奈良・米屋高橋平蔵(三・造)(五年)、白銀(金)屋小瀬弥三郎(五年)

和泉国 ①堺・河内屋鈴木久三郎(二・五年)、北村屋佐平(五年)、書籍会社(五年)

摂津国 ①尼崎・岡野清助(五年)、②神戸・多田屋善九郎(元・二・四年)、桑屋辰三郎(四年)、③兵庫・油屋正五郎(二年)、中屋中井与兵衛(二・五年)

伊勢国 ①神戸・本屋服部利三郎(五年)、②桑名・糺屋森伝四郎(五年)、③津・雲出屋篠田伊十郎(元・三・五年)、丁字屋服部清七(四・五年)、山形屋大森伝右衛門(四・五年)、本屋沢田佐兵衛(五年)、④松坂・柏屋山口兵助(五年)、本屋中西嘉助(五年)、⑤山田・宮崎左近(元年)、村松左京(元・三年)、藤原屋甚吾(三年)、藤原屋加藤長平(四年)、山崎(屋)与三(惣)兵衛(玉潤堂)(四・五年)、藤原(屋)甚右衛門(五年)、⑥四日市・吉

田屋伊藤善太郎(宝雲堂)(三・四年)、永樂屋治右衛門(五年)、  
武田礼吉(五年)

尾張国

①大野・本屋伊藤(東)真(新)藏(造)(四年)、②蟹江・本  
屋善助(五年)、③名古屋・永樂屋片野東四郎(元〳五年)、菱  
屋矢田藤兵衛(元〳五年)、金網屋愛敬伴七(金網屋奈可)(二・  
三・五年)、豊原堂(二・四年)、万屋栗田東平(二〳五年)、  
秋田屋梶田勘助(三年)、井筒屋佐藤文助(三〳五年)、永樂屋  
加藤正兵衛(三〳五年)、長谷川孫助(三・五年)、菱屋浜田久  
八郎(三・五年)、菱屋金兵衛(三・五年)、菱屋細川小八郎(三・  
五年)、本屋鬼頭保兵衛(三・五年)、丸屋伊助(三・五年)、  
美濃屋三輪伊六(三〳五年)、愛竹居伝吉(四年)、永樂屋片野  
和助(四・五年)、大野屋江口惣八(四年)、日新堂完藏(四年)、  
菱屋鬼頭平兵衛(四・五年)、菱屋鬼頭松次郎(四年)、美濃屋  
伊兵衛(四年)、美濃屋三輪文次郎(四・五年)、秋田屋梶田源  
助(五年)、井筒屋佐藤与助(五年)、永樂屋小沢吉助(五年)、  
永樂屋佐助(五年)、永樂屋新七(五年)、岡田屋平治(次)郎  
(五年)、小木曾勘助(五年)、(五年)、文明社(五年)、美濃屋  
三輪清七(五年)、美濃屋川瀬代助(五年)、④横須賀・村瀬吉  
左衛門(五年)

三河国

①榎前・加藤利兵衛(五年)、②岡崎・本屋伊藤文吉(四・五年)、  
稲岡左橋(日進堂)(五年)、紙屋新右衛門(五年)、紙屋安藤  
新三郎(五年)、松菊堂(五年)、進誠堂(五年)、物産会社(五  
年)、③舉母・角屋善藏(五年)、④御油・竹屋権左衛門(五年)、  
⑤田原・加子三右衛門(五年)、広中六太夫(五年)、⑥豊橋・  
小野久六(五年)、神戸藤次(治)郎(五年)、佐野権三郎(五  
年)、⑦西尾・開益堂万(五年)、加(鹿)島(屋)重兵衛(五  
年)、⑧乗本村・菅沼幸兵衛(五年)

遠江国

①浜松・谷島屋斎藤源三郎(博文舎)(三年)、白木(屋)健次(二・  
治)郎(積徳堂)(四年)、谷島屋斎藤太兵衛(四年)、伊勢屋権  
平(五年)、伊勢屋落合清七(積石堂)(五年)、伊勢屋太右衛門  
(五年)

駿河国

①静岡・浪花屋広瀬市藏(元〳五年)、須原屋市ヶ谷善藏(造)  
(蒼龍閣)(二〳五年)、東(吾妻)屋佐藤俊平(晚翠閣)(三年)、  
②沼津・小松(屋)浦右衛門(二年)、常盤(本)屋小松浦吉(尚  
古軒)(二・四・五年)、本屋荒川源助(介)(盛秀堂)(二・五年)、  
本屋吉成寿三郎(擁万堂)(三・五年)、③藤枝・遠州屋浅井安(保)  
兵衛(五年)

甲斐国

①甲府・藤屋内藤伝右衛門(元・四・五年)、井筒屋武井豊兵  
衛(五年)、伊勢屋宗助(五年)、小西屋庄右衛門(五年)、嶋  
屋吉右衛門(五年)、二文屋藤右衛門(五年)、村田屋孝(幸)  
太郎(五年)

伊豆国

①三島・堺(酒井)屋小西又三郎(栄樹堂)(五年)

相模国

①小田原・金井金八(五年)

武蔵国

①岩槻・油屋喜太郎(五年)、②浦和・大浦長藏(二年)、③行  
田・原田清太郎(五年)、④熊谷・森市三郎(博文堂支店)(二年)、  
⑤鴻巣・長島(屋)為一郎(二年)、⑥羽生・安西文次郎(二年)、  
⑦深谷・小野修(脩)三(二・三年)、酒井省吾(松下堂)(三年)、  
⑧本庄・酢屋武正安兵衛(二年)、⑨横浜・東屋新吉(元年)、  
伊勢屋勝郎(元年)、佐野屋尾崎富五郎(元〳五年)、師岡屋吉  
川伊兵衛(元〳四年)、不二屋久之助(善楽堂)(二〳四年)、小  
林屋岸田銀次(三・四年)、横浜活版社(三〳五年)、伊勢屋茂  
兵衛(四年)、岩亀楼さい(四年)、栗原清八郎(四年)、杉村  
屋貞七(四年)、須原屋佐兵衛(四年)、出島松造(四年)、増  
田万吉(四・五年)、丸善支店(五年)

下総国 ①佐原・釜屋朝野利兵衛(三・五年)、②野田・梅屋茂木林蔵(造)(三年)

常陸国 ①土浦・寺田(屋)新助(五年)、②水戸・須原屋北沢安次郎(二・三・五年)、舛屋治三郎(三年)、松信善之助(知新堂)(三年)

近江国 ①大津・錢屋六次郎(三年)、本屋古川伊助(有慶堂)(三年)、本屋沢宗次郎(三・五年)、②高宮・近江屋北川太平(三・五年)、

③八幡・表屋佐兵衛(三年)、④彦根・本(錢)屋小川九平(圭章堂)(五年)

美濃国 ①大垣・本屋平野利兵衛(三・五年)、茶屋上田源蔵(五年)、

本屋岡安慶(啓)助(介)(畔間堂)(四・五年)、②笠松・玉井(屋)忠右衛門(三・五年)、玉井(屋)忠蔵(造)(頼祭堂)(五年)、本屋加藤庄(正)兵衛(五年)、③加納・佐藤次郎九(五年)、丁字屋平作(五年)、④岐阜・関屋三浦源助(成美堂)(三・五年)、柏屋水谷善七(日新堂)(四年)、玉井(屋)忠蔵(造)出店(四年)、松坂屋福田半九郎(四・五年)、大和屋山岸弥右衛門(東崖堂)(四年)、伊予屋高橋長治(次・二)郎(三五友堂)(五年)、笹屋甚三郎(五年)、山中屋奥三郎(五年)、⑤上有知・鈴木市郎右衛門(五年)、鈴木健次郎(五年)、⑥高田・村上哲蔵(造)(五年)、⑦高富・杉(相)山当太(五年)

信濃国 ①飯田・河内屋新太郎(三年)、十一屋皆川半四郎(文星堂)(四・五年)、木下文蔵(五年)、②上田・鼠屋伊東(藤)甲(幸)造

(蔵)(汲古堂)(四年)、柏屋惣兵衛(五年)、③大町・筒井要三(蔵)(五年)、④小諸・相場七左(右)衛門(發蒙舎)(三年)、⑤諏訪・袴屋栄助(湖月堂)(五年)、藤屋藤森機(喜・磯)右(左)衛門(五年)、⑥高遠・北原吉兵衛(五年)、⑦長野・小栢屋西沢喜太郎(三・五年)、⑧松本・樅屋窪(久保)田重平(兵衛)(知新堂)(五年)、高美屋高見甚左衛門(五年)、藤松屋竹内禎十郎

(五年)

上野国 ①伊勢崎・川木屋平(兵)吉(二年)、松本玄瑞(杏雲堂)(二年)、

②高崎・菊屋柴田源作(文心堂)(二年)、沢木屋要蔵(二年)、島田八百樹(太平堂)(二年)、③富岡・三嶋屋喜十郎(二年)、④前橋・島村吉三郎(二年)、下妻屋儀八郎(新文堂)(二年) 下野国 ①宇都宮・荒物屋篠崎伊右衛門(五年)、②栃木・釜屋立川喜兵衛(二年)

磐城国 ①白河・藤屋茂兵衛(四年) ②中村・志賀茂卿(三年)

岩代国 ①福島・上野屋斎藤彦太郎(三年)、近江屋三十郎(五年)、②若松・菊地庄左衛門(元・三年)、斎藤(屋)八四郎(五年)

陸前国 ①仙台・伊勢屋白木半右衛門(元・三・五年)、伊勢屋安右衛門(二・三年)、菅原(屋)安兵衛(五年)、②若柳・鈴木屋善蔵(三年)

陸中国 ①一ノ関・及川兵次(二・治)(三年)

陸奥国 ①青森・柿崎(屋)忠兵衛(三年)

羽前国 ①山形・市村(屋)五郎兵衛(三年)

羽後国 ①久保田・柿崎屋精一郎(二年)、②横手・柿崎四郎兵衛(元・二年)

若狭国 ①小浜・松本(屋)利兵衛(五年)

越前国 ①武生・近江屋久兵衛(五年)、②敦賀・天屋清次郎(五年)、③福井・岡崎左(佐)喜(記)助(介)(五年)、帶屋喜八(郎)(五年)、二文字屋酒井安兵衛(平)(文栄堂)(五年)

加賀国 ①金沢・津幡屋(元・二年)、宮田屋(元・二年)、近田太(多)平(兵衛)(古香堂)(四年)、中村(屋)喜平(兵衛)(知新堂)(四・五年)、春田徳太郎(四年)、吉本(屋)次(治)郎兵衛(北溟社)(四年)、桜井保一(市)(五年)、桜井余(与)三平(兵衛)(五年)、近岡(屋)太兵衛(平)(五年)、野島信(真)吉(春芳堂)

(五年)、八田(屋) 治郎兵衛(五年)、御供田屋太兵衛(五年)、  
山田(屋) 耕(孝) 吉(五年)

越中国 ①富山・上市(屋) 宇(卯)(介)(五年)

越後国 ①柏崎・高桑(屋) 小兵衛(平)(五年)、②潟村・富田屋佐藤

友吉(三年)、③新発田・浜崎(屋) 喜助(元年)、④高田・本

多屋本田勝太郎(開進堂)(三年)、浅間屋小(緒) 方(形) 長

吉(精良堂)(五年)、⑤長岡・中村屋佐藤作平(兵衛)(三・五年)、

上田屋次(治) 八(五年)、鳥屋目黒十郎(五年)、⑥新潟・三

国屋金四郎(二年)、窪田忠藏(三年)、三条屋忠藏(三年)、

不由書院(三年)、荒川太司(荒川新聞店)(五年)、⑦沼垂・岡

田(本) 屋田辺善作(五年)

因幡国 ①鳥取・出雲屋清兵衛(五年)、久美屋清吉(五年)

出雲国 ①松江・尼崎屋園山喜三右衛門(五年)、辰巳屋忠左衛門(五年)

石見国 ①浜田・出雲屋安達幾太郎(五年)

播磨国 ①明石・田中宗二郎(五年)、②姫路・灰屋松原庄八(五年)、

灰屋本莊輔二(五年)、灰屋山野長兵衛(五年)

美作国 ①真嶋・三沢笑平(五年)

備前国 ①岡山・小山屋朔右衛門(二年)、勢能屋渡辺源米(兵衛・平)

(五年)、中島屋世良田益太郎(五年)

備中国 ①井原・萩(萩) 田長三(五年)、②笠岡・細謹社(五年)、③

倉敷・黒金屋(舎) 亀山助四郎(三年)、④高梁・加島屋樋池

長八(郎)(五年)、松田屋大三郎(五年)、守屋宇助(五年)

備後国 ①福山・笹屋藤村喜兵衛(五年)

安芸国 ①鞆津・村上新助(五年)、②広島・井筒屋末田勝治郎(二・

四年)、世並屋伊兵衛(五年)

周防国 ①岩国・米屋(谷) 助右衛門(文照堂)(五年)、②徳山・浅(朝)

田屋孫兵衛(五年)、③富海・入柙屋茂兵衛(五年)

長門国 ①下関・書籍会社(五年)、②萩・山城屋宮部彦八(五年)

紀伊国 ①箕島・宮原屋橋爪伝右衛門(五年)、②和歌山・総田屋嘉兵

衛(三年)、坂本屋野田大二郎(三・五年)、天香堂(三年)、

帯屋高市伊兵衛(五年)、坂本屋野田喜一郎(五年)、平井文助

淡路国 ①須本・桑島屋福浦文蔵(五年)

阿波国 ①徳島・紀伊国屋黒崎三右衛門(五年)、天満屋住友武兵衛(五

年)

讃岐国 ①琴平・柏屋沼田仲助(五年)、②坂出・阿賀弥三郎(五年)、

海野清太郎(五年)、③志度村・松嶋周三郎(五年)、④高松・

河内屋岡田為助(奎章堂)(五年)、亀多甚七(五年)、好文堂(五

年)、本屋岩佐茂兵衛(五年)、松岡庄蔵(五年)、水茶屋(五年)、

⑤瀧ノ宮・江川溶平(五年)、⑥多度津・大山鶴市(五年)、⑦

津田村・国方友七(五年)、⑧長尾東村・三木相平(五年)、⑨

仏生山・奈良恒五郎(五年)、⑩丸亀・和泉槌蔵(五年)

伊与国 ①西條・加地可平(五年)、三木繁蔵(五年)、②松山・木村

庸(五年)

土佐国 ①高知・改田屋栗尾民蔵(造)(五年)、夜須屋近藤為吉(五年)

筑前国 ①博多・深屋船(舟) 木弥助(五年)、②福岡・岩田屋芳兵衛(五

年)

筑後国 ①久留米・二文字屋菊竹儀兵衛(平)(金文堂)(五年)

豊前国 ①小倉・中津屋中島卯助(五年)、鍋屋五兵衛(五年)、②中津・

松葉屋作兵衛(五年)

豊後国 ①臼杵・釘宮嘉平(五年)、②大分・大坂屋山川正(庄) 三郎(五

年)、(京都) 村上勘兵衛出(支) 店(五年)

肥前国 ①伊万里・中村堪二(五年)、②佐賀・槌(土) 屋河内壮(莊・

總・惣・宗) 助(介)(五年)、③長崎・小野左右助(三・五年)、

小野国太郎（四年）、活版製造所（四年）、塩屋常次郎（四・五年）、弦屋利右衛門（四年）、丸屋利右衛門（四年）、下瀬久兵衛（五年）、城野友三郎（五年）④平戸・三輪屋八十治（五年）肥後国 ①熊本・小島（屋）儀兵衛（五年）、豊前屋阿部太平（兵衛）（五年）

薩摩国 ①鹿兒島・青木泰助（輔・介）（三・五年）、吉田源（三）左（右）衛門（五年）

となる。

この結果を国別・地域別に編成しなおすと、

三七人 ①尾張国（名古屋三四、大野・蟹江・横須賀各一）

二四人 ①武蔵国（横浜一五、深谷二、岩槻・浦和・行田・熊谷・鴻巣・羽生・本庄各一）

二〇人 ①美濃国（岐阜八、大垣・笠松各三、加納・上有知各二、高田・高富各一）

一八人 ①三河国（岡崎七、豊橋三、田原・西尾各二、榎前・舉母・御油・乗本村各一）

一七人 ①伊勢国（山田六、津四、四日市三、松坂二、神戸・桑名各二）

一六人 ①讃岐国（高松六、坂出二、琴平・志度村・瀧ノ宮・多度津・津田村・長尾東村・仏生山・丸亀各一）

一四人 ①信濃国（飯田・松本各三、上田・諏訪各二、大町・小諸・高遠・長野各一）、②越後国（新潟五、長岡三、高田二、柏崎・新発田・沼垂・潟村各一）

一三人 ①加賀国（金沢一三）

一一人 ①肥前国（長崎八、伊万里・佐賀・平戸各一）

八人 ①駿河国（沼津四、静岡三、藤枝二）、②上野国（高崎三、伊勢崎・前橋各二、富岡一）

七人 ①紀伊国（和歌山六、箕島一）、②甲斐国（甲府七）、

六人 ①遠江国（浜松六）、②近江国（大津三、高宮・八幡・彦根各一）、③備中国（高梁三、井原・笠岡・倉敷各一）

五人 ①摂津国（神戸・兵庫各一、尼崎一）、②越前国（福井三、武生・敦賀各一）

四人 ①常陸国（水戸三、土浦一）、②岩代国（福島・若松各二）、③陸前国（仙台三、若柳一、④播磨国（姫路三、明石一）

三人 ①和泉国（堺三）、②備前国（岡山三）、③安芸国（広島二、鞆津一）、④周防国（岩国・徳山・富海各一）、⑤伊予国（西条二、松山一）、⑥豊前国（小倉二、中津一）⑦豊後国（大分二、臼杵一）

二人 ①大和国（奈良二）、②下総国（佐原・野田各一）、③下野国（宇都宮・栃木各一）、④磐城国（白河・中村各一）、⑤羽後国（久保田・横手各一）、⑥因幡国（鳥取二）、⑦出雲国（松江二）、

⑧長門国（下関・萩各一）、⑨阿波国（徳島二）、⑩土佐国（高知二）、⑪筑前国（博多・福岡各一）、⑫肥後国（熊本二）、⑬薩摩国（鹿兒島二）

一人 ①伊豆国（三島一）、②相模国（小田原一）、③陸中国（一関一）、④陸奥国（青森一）、⑤羽前国（山形一）、⑥若狭国（小浜一）、⑦越中国（富山一）、⑧石見国（浜田一）、⑨美作国（真嶋一）、⑩備後国（福山一）、⑪淡路国（須本一）、⑫筑後国（久留米一）

となり、業者の実数は三十三人であったことがわかる。また、一〇人以上の出版業者が存在していた国と場所は、尾張国名古屋三四人、武蔵国横浜一五人、加賀国金沢一三人の三箇国三箇所であったことが知れる。ちなみに、当該期に出版に関わる人々を検出し得なかった国は、山城、河内、志摩、伊賀、安房、上総、能登、佐渡、丹波、丹後、伯耆、日向、大隅、老岐、対馬、北海道（蝦夷地）の一六箇国であった。

おわりに

文政期から慶応期のいずれかの年に刊行ないし販売に関係し、明治元々5年の間のいずれかの年にも関わりが確認できる出版業者を国別・地域別にまとめると、

和泉国 ①堺・河内屋鈴木久三郎、北村屋佐平

摂津国 ①神戸・多田屋善九郎、②兵庫・油屋正五郎、中屋中井与兵衛

伊勢国 ①桑名・糀屋森伝四郎、②津・雲出屋篠田伊十郎、丁子屋服部清七、本屋沢田佐兵衛、山形屋大森伝右衛門、③松坂・柏屋山口兵助、本屋中西嘉助、④山田・藤原(屋)甚右衛門、藤原屋加藤長平、宮崎左近、村松左京、⑤四日市・永楽屋治右衛門

尾張国 ①名古屋・秋田屋梶田源助、井筒屋佐藤文助、永楽屋小沢吉助、永楽屋加藤正兵衛、永楽屋片野東四郎、永楽屋片野和助、大野屋江口惣八、小木曾勘助、金網屋愛敬友七(金網屋奈可)、豊原堂、長谷川孫助、菱屋浜田久八郎、菱屋金兵衛、菱屋細川小八郎、菱屋矢田藤兵衛、菱屋鬼頭平兵衛、本屋鬼頭保兵衛、美濃屋三輪伊六、美濃屋三輪清七、美濃屋川瀬代助、美濃屋三輪文次郎、万屋栗田東平

三河国 ①岡崎・本屋伊藤文吉

遠江国 ①浜松・伊勢屋太右衛門

駿河国 ①静岡・浪花屋広瀬市蔵

甲斐国 ①甲府・井筒屋武井豊兵衛、二文字屋藤右衛門、藤屋内藤傳右衛門、村田屋孝太郎

武蔵国 ①鴻巣・長島(屋)為一郎、②本庄・酢屋武正安兵衛、③横浜・東屋新吉、伊勢屋勝郎、岩亀楼さい、佐野屋尾崎富五郎、師岡屋吉川伊兵衛

下総国 ①佐原・釜屋朝野利兵衛

常陸国 ①土浦・寺田(屋)新助、②水戸・須原屋北沢安次郎、舛屋冶三郎

近江国 ①大津・本屋沢宗次郎、②高宮・近江屋北川太兵衛

美濃国 ①大垣・茶屋上田源藏、本屋平野利兵衛、②岐阜・松坂屋福田半九郎

信濃国 ①上田・柏屋惣兵衛、②長野・小栢屋西沢喜太郎、③松本・高美屋高見甚左衛門、藤松屋竹内禎十郎

上野国 ①高崎・沢本屋要藏

下野国 ①宇都宮・荒物屋篠崎伊右衛門、②栃木・釜屋立川喜兵衛

岩代国 ①福島・近江屋三十郎、②若松・斎藤(屋)八四郎、菊地庄左衛門

陸前国 ①仙台・伊勢屋白木半右衛門、伊勢屋安右衛門、菅原(屋)安兵衛、②若柳・鈴木屋善藏

羽後国 ①横手・柿崎(屋)四郎兵衛

若狭国 ①小浜・松本(屋)利兵衛

越前国 ①福井・帯屋喜八郎

加賀国 ①金沢・津幡屋、近岡(屋)太兵衛、宮田屋

越中国 ①富山・上市(屋)字助

越後国 ①柏崎・高桑(屋)小兵衛、②新発田・浜崎(屋)喜助、③長岡・中村屋佐藤作平、鳥屋目黒十郎、④新潟・三条屋忠藏

出雲国 ①松江・尼崎屋園山喜三(惣)(右)衛門

石見国 ①浜田・出雲屋安達幾太郎

播磨国 ①姫路・灰屋松原庄八、灰屋本莊輔二、灰屋山野長兵衛

備前国 ①岡山・中島屋世良田益太郎

備後国 ①福山・笹屋藤村喜兵衛

安芸国 ①広島・井筒屋末田勝治郎、世並屋伊兵衛

周防国 ①徳山・浅(朝)田(屋)孫兵衛

長門国 ①萩・山城屋宮部彦八

紀伊国 ①和歌山・帯屋高市伊兵衛、総田屋嘉兵衛、坂本屋野田喜一郎、坂本屋野田大二郎、天香堂、平井文助

淡路国 ①須本・桑島屋福浦文蔵

阿波国 ①徳島・紀伊国屋黒崎三右衛門、天満屋住友武兵衛

讃岐国 ①琴平・柏屋沼田仲助、②高松・本屋岩佐茂兵衛

筑前国 ①博多・深屋船木弥助

豊前国 ①小倉・中津中島屋卯助

肥前国 ①長崎・小野左右助

薩摩国 ①鹿児島・吉田源(三)左(右)衛門

のように、四〇箇国、五九箇所、業者数一一四人となる。しかしながら、そのうち明治元年から五年までの間毎年連続して出版物の刊行・販売に係っていたことが確認できる出版業者は、名古屋の永楽屋片野東四郎と菱屋矢田藤兵衛、静岡の浪花屋広瀬市蔵、横浜の佐野屋尾崎富五郎の四人だけであった。明治元年から五年までの間一年を除き出版物の刊行・販売に関わったことが確認できる、津の雲出屋篠田伊十郎、名古屋の万屋栗田東平、横浜の師岡屋吉川伊兵衛、仙台の伊勢屋白木半右衛門の四人を加えても、わずか八人という結果にすぎなかった。

本稿によって、当該期における出版業者のある程度正確な事実を把握し得たが、とても十分なものとはいえない。今後も基礎資料を充実させる作業を継続して行きたい。また、こうした出版業者の営業実態も不明な点だらけである。そうした点の解明も今後の課題にしたいと思っている。

註

(1) データは現物を中心として、国文学研究資料館整理閲覧部「国文学研究資料館

蔵マイクログ資料目録 一九七六～一九九八「国文学研究資料館、一九七七～二〇〇〇年」、『国文学研究資料館蔵和古書目録 一九七二～一九九七』国文学研究資料館、一九九八年)、國學院大学日本文化研究所「河野省三記念文庫 和装本之部」(錦正社、一九九三年)、石島庸男等「山形県内出版和本・和装本目録稿」(栄文堂書店、一九九四年)、共立女子大学図書館編、刊「共立女子大学図書館所蔵和装本目録第一」(一九九六年)、小泉吉永「女子用往来刊本目録」(大空社、一九九六年)、秋山高志「改訂増補近世書林板元總覧」(青裳堂書店、一九九八年)、高市 績「江戸時代紀州出版者出版物図版集覧上・下・補遺」(高市 績、一九九八・二〇〇二年)、鈴木 淳・三木身保子「カリフォルニア大学ロスアンゼルス校所蔵日本古典籍目録」(刀水書房、二〇〇〇年)などの書誌・書目類、名雲純一「明治時代教育書とその周辺」(名雲書店、一九九三年)、横浜市中央図書館開館記念誌編集委員会編「横浜の本と文化」・同・別冊(横浜市中央図書館、一九九四年)、太田正弘「尾張出版文化史」(六甲出版、一九九五年)、朝倉治彦・大和博幸「近世地方出版の研究」(東京堂出版、一九九三年)、岸 雅裕「尾張の書林と出版」(青裳堂書店、一九九九年)、秋山高志「近世常陸の出版」(青裳堂書店、一九九九年)、長友千代治「江戸時代の図書流通」(思文閣出版、二〇〇二年)、鈴木俊幸「一九が町にやってきた」(高美書店、二〇〇一年)、鈴木俊幸「江戸の読書熱」(平凡社、二〇〇七年)、広島市文化財広島城編「城下の祭り―砂持加勢」(広島市市民局文化スポーツ部文化財課、二〇〇八年)などの著作類、吉海直人「絵図屋庄八」について「同志社女子大学学術研究年報」四四巻IV、一九九三年)、八鍬友広「越後・佐渡地域の書肆について」(新潟大学教育学部紀要「第三五巻第一号、一九九三年)、八鍬友広「地方往来物の編纂動向に関する研究」(1)「新潟大学教育学部紀要」第三九巻第一号、一九九七年)、竹松幸香「近世金沢の出版」(「地方史研究」四七巻五号、一九九七年)、中野三敏「九州の地方出版」(「近世文芸」二〇〇七年)、梶山雅史・中村新三「岐阜県教科書史研究(1)」(「岐阜大学教育学部研究報告 人文科学」第四八巻第二号、二〇〇〇年)、須山高明「近世紀州の『諸商』(和歌山地方史研究)三八号、二〇〇〇年)、須山高明「近世紀州書籍出版物編年目録稿」(和歌山県立博物館研究紀要)五・六号、二〇〇〇・二〇〇一年)、渡邊慎也「仙台書林・伊勢屋半右衛門の出版実態」(「日本出版資料」7号、二〇〇二年)などの雑誌類で補足し作成した。

(2) 明治時代になり地方行政制度は大きく変換したが、本稿では比較する視点から江戸期の行政制度を用いることにした。

(3) 静岡の須原屋市ヶ谷善蔵(造)(蒼龍閣)は、明治二～五年の四年間出版物の刊行ないし販売に関わっていたことが確認できるが、文政期から慶応期に関係していたことが確認できないので除外することにした。